

# 社会的事象を多面的にとらえ，公正に判断する力を育てる 社会科指導方法の研究

- 社会的思考・判断力を高めるディベート授業の実践を通して -

唐津市立佐志小学校 教諭 池田 隆史

## 要 旨

本研究は社会科学習において，社会的事象を多面的にとらえ，公正に判断する力を育成するために，身近な社会的問題を教材化し，学習過程にディベートを取り入れ，自分の意見を吟味する学習活動，自分の意見の変容を自覚できる学習活動の在り方について研究したものである。自分の意見を吟味する学習活動では，3つの吟味の場を設定した。また，自分の意見の変容を自覚できる学習活動では，意見の変容を考察できるワークシートを活用し，ディベート前後の意見の変容に視点を当てたアフターディベートを設定した。さらに，単元全体を通じて社会的思考・判断力の評価の工夫を行った。

その結果，児童は社会的事象に関心をもち，多様な価値を考慮し，個人的利益を重視した意見から公共性を考慮した意見への変容が見られ，社会的思考・判断力を高めることができた。

<キーワード> 身近な社会的問題の教材化 自分の意見の吟味 自分の意見の変容の自覚  
社会的思考・判断力の評価の工夫

## 1 主題設定の理由

小学校の社会科は，「公民的資質の基礎」を養うことを究極的なねらいとしている教科である。ねらい達成のためには，社会に対する理解と愛情を育てるとともに，児童の主體的な学習を重視することが大切である。現代の日本社会は，国際化，情報化，高齢化など大きな変革期にあり，様々な社会的問題を抱えていると言える。社会的問題を解決するには，社会的事象を多面的に見て，合理的に判断することが求められる。すなわち，社会の変化に主体的に対応しようとする能力を身に付けた児童の育成，特に，社会的思考・判断力を高めることが重要であると考えられる。

ディベートは社会的思考・判断力を高めるのに適した学習方法である。児童は，一つの論題について，同じグループの人たちや対立する相手方など，多くの人々の社会的見方や考え方に接し，論理の構築，情報や証拠の提示の優劣を学び，説得力の観点から吟味を要求される。その結果，論争問題への幅広い知識や社会的見方・考え方を身に付けることができる。そこで，本研究においては，社会科の学習過程において効果的にディベートを取り入れ，児童の社会的思考・判断力を高めたいと考え，本主題を設定した。

## 2 研究の目標

身近な社会的問題を教材化し，多面的にとらえ，公正に判断する力を育てる社会科指導方法を研究する。

## 3 研究の仮説

社会科の学習過程においてディベートを取り入れ，次のような手立てを取れば，児童は社会的事象に関心をもち，多面的にとらえ，社会的思考・判断力を高めることができるであろう。

児童が興味・関心をもてる地域教材の開発

自分の意見を吟味する学習活動の設定

自分の意見の変容を自覚できるアフターディベート及び社会的思考・判断力の評価の工夫

#### 4 研究の内容と方法

第5学年「わたしたちの生活と環境・自然保護」において，児童が興味・関心をもてる教材を開発し，検証授業を行う。

ディベート授業についての先行研究や実践例を調査して，指導方法について研究する。

効果的なアフターディベートの指導方法と，社会的思考・判断力の検証方法について研究する。

#### 5 研究の実際

##### (1) 児童が興味・関心をもてる地域教材の開発

###### ア 佐志浜埋め立て問題

佐志小学校に隣接する佐志浜は，県の港湾計画により平成3年から埋め立て工事が始まり，現在は埋め立て地となっている。埋め立て当時は賛成派と反対派に分かれた論争があり，地元の漁業者や「唐津の海を守ろう市民の会」が県を相手に訴訟を起こし，すべて県側が勝訴した経緯がある。また，当初の埋め立ての目的は，住宅関連用地や緑地としての活用であったが，経済状況の悪化から公共事業が大幅に見直され，住宅確保の必要性がなくなってしまった。現在は，埋め立て地の活用策について地元住民との協議が不定期的に行われているが，具体的な方針は立てられていないのが現状である。



写真1 佐志浜埋め立て地

今回の単元では，導入時に，佐志浜の埋め立て前の写真と現在の写真を提示し，比較させた。さらに，佐志浜が埋め立てられるまでの経緯や，埋め立て訴訟の概要について調べさせることで身近にある開発と自然保護をめぐる問題に気付かせた。また，活用策の具体的な方針がなく，ごみの不法投棄まで起こっている現在の埋め立て地の状況に気付かせ，問題解決に対する切実性をもたせた。

###### イ 海遊浪漫都市構想

平成16年7月，国土交通省の都市再生モデル調査事業に唐津市の「海遊浪漫都市構想」が採択された。これは，今まで個別に進めてきた唐津湾の各種事業や，遊休地の状況を一元的に把握し，海際全体としてのまちづくりにつなげるものである。その対象地の一つに佐志浜の埋め立て地が挙げられている。また，構想については，現在「元気再生委員会」が中心となって内容が検討されている。「元気再生委員会」とは，民間のアイデアを行政に反映させることを目的に立ち上げられた唐津市長直属の委員会である。



写真2 元気再生委員会

今回の単元では，佐志浜埋め立て地の問題を取り上げた後，元気再生委員会のコアメンバーの方をゲストティーチャーとして迎え，「海遊浪漫都市構想」についてお話をいただいた。海を中心としたまちづくりという構想のねらいに興味をもたせた後，埋め立て地の活用策について考え，元気再生委員会に提案するという学習計画を立て，問題解決への意欲を高めさせた。

###### ウ 単元構成

今回の研究では，第5学年の単元「わたしたちの国土と環境」の「わたしたちの生活と環境」，「わたしたちの生活と自然保護」をより地域の実態に合わせ，児童が興味・関心をもてるような単元構成に変えて授業を行った。単元名は「未来の唐津市～海遊浪漫都市構想について考えよう」とし，身近にある開発と自然保護をめぐる問題について理解し，問題解決のために多様な価値を考慮して，自分の意見を吟味しながら思考・判断する児童を育てることを目的とした。

(2) 自分の意見を吟味する学習活動,自分の意見の変容を自覚できる学習活動の設定

ア 単元の指導計画・・・「未来の唐津市～海遊浪漫都市構想について考えよう」(10時間)

児童の社会的思考・判断力を高めるため、次のような学習活動を設定した。

学習過程	主な学習活動
問題把握 (3時間)	自然環境と人々の生活や産業との関連について調べる。(1時間) 開発と自然保護をめぐる問題(佐志浜埋め立て問題)について理解する。(1時間) 海遊浪漫都市構想について知る。(1時間) さらに魅力ある唐津市にするため佐志浜埋め立て地の活用策を考え、提案しよう。
解決策の立案と検討 (5時間)	佐志浜埋め立て地の活用策について考え、論題を設定する。(1時間) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人の意見をもつ。</li> <li>・ ブレーンストーミングと吟味を行う。←</li> <li>・ 多様な意見を吟味し、論題を設定する。←</li> </ul> 論題 佐志浜埋め立て地に「唐津海遊タウン」をつくるべきである。 論題についてのリサーチをし、立論、反論を考える。(1時間) 賛成派、反対派に分かれてディベートの準備をする。(1時間) 論題についてディベートを行う。(2時間)
振り返り (2時間)	アフターディベート(論題についての意見、埋め立て地の活用策についての意見を初めの意見と比較する)(1時間)← 個人の提案文をまとめ、元気再生委員会に提案する。(1時間)

**社会的問題について個人の意見を吟味する場**  
 自分がどういう価値を重要視して思考・判断しているのかを自覚させ、他の児童が重要視している価値を参考にしながら自分の意見を吟味させる。(思考・判断の基になる価値の自覚)

**暫定的な最善策を決定するために多様な意見をクラス全員で吟味する場**  
 多様な意見を次の観点で吟味させ、ディベートの論題を設定する。  
 ・ 実現可能か  
 ・ 効果があるか  
 ・ 新たな問題を生まないか  
 ・ 海遊浪漫都市構想の目的に合うか

**賛成派、反対派に分かれてディベートを行い論題について吟味する場**  
 暫定的な最善策をディベートの論題に設定した後、賛成、反対それぞれの立場からリサーチし、議論を通して吟味させる。

**議論を客観的に振り返り、意見の深まりを促すアフターディベート**  
 ディベートでの主張内容を検討し、論題について最終的な意思決定をさせる。さらに、ディベート前と後の自分の意見の変容に気付かせ、その理由について分析させる。

イ 自分の意見の変容を自覚できるワークシート

図1のワークシートを活用させ、自分の意見の変容に気付かせる。さらに、意見の変容の理由について考察させ、自分が影響を受けた他の児童の意見や、価値に気付かせる。そうすることで、児童は自分の社会的思考・判断力の高まりを自覚し、更なる高まりにつながると考えた。

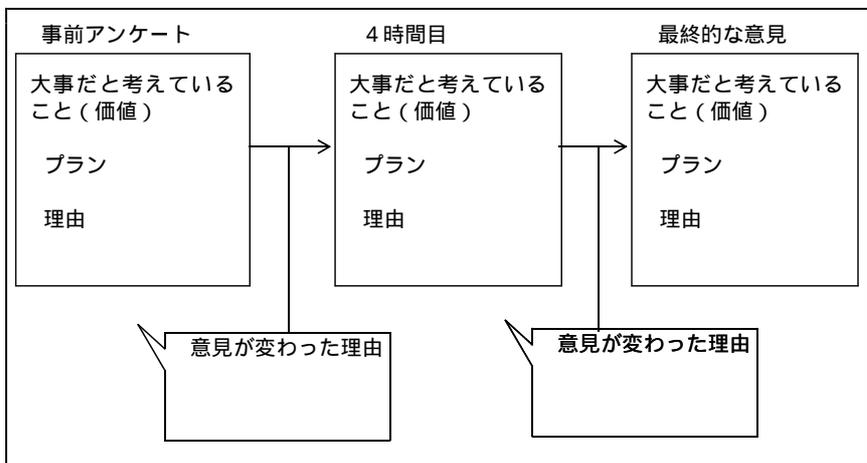


図1 自分の意見の変容を自覚できるワークシート

(3) 授業実践による検証

ア ディベートの論題についての賛否とその理由の変容

解決策の立案と検討の段階で出された多様な意見をクラス全員で吟味し、暫定的な最善策として、表1に示すような仮想のマリンリゾート施設「唐津海遊タウン」を佐志浜埋め立て地に建設することを決め、ディベートの論題に設定した。施設の特徴や目標入場者数など「唐津海遊タウン」の概要は児童と話し合いながら決めた。また、この時点で、「唐津海遊タウン」を造ることについての賛否とその理由を書かせた。次に、論題についてのリサーチをし「唐津海遊タウン」ができた場合のメリットとデメリットを全員で考えたところ、表2のような意見が出された。

表1 唐津海遊タウンにある施設

海水温泉	海の幸のレストラン	人工海浜
水辺の森・芝生公園	スポーツ館	道の駅
グラウンド	体育館	

その後、児童を、自分の意見と無関係に機械的に賛成派と反対派に分け、ディベートを行わせた。ディベートでは、メリットやデメリットの発生可能性と

表2 「唐津海遊タウン」ができた場合のメリットとデメリット

<b>メリット</b> ・観光客増、市の収入増 ・中国・韓国と交流できる ・働ける場ができる ・埋め立て反対派が良かったと思える ・たくさんの人が楽しめる	<b>デメリット</b> ・近所迷惑(騒音・悪臭・ごみ・犯罪) ・赤字・経営不振 ・交通事故・混雑・路上駐車 ・海が汚れる ・他の店が困る
--	--

大きさを検討し合い、「唐津海遊タウン」を造ることの是非について吟味を行わせた。アフターディベートでは、再度「唐津海遊タウン」を造ることについての賛否とその理由を書かせた。その際、表3のような価値の分類表を作成し、児童から出された意見の分類を行った。また、表4にある内容で公私の判断を行い、意見の変容を分析した。

表3 児童レベルでの価値と上位概念(上位の価値)

上位概念	児童レベルでの価値(大事だと考えていること)
娯楽	スポーツ, 楽しみ, 親水, 観光, 遊び, 買い物, 自由
郷土愛	ふるさと, 唐津らしさ, 歴史, 人気, 文化, 国際交流
生活福祉	住宅, 健康, 暮らし, ふれあい, お年寄り, 医療, 買い物
教育	佐志小, 学習, 学校
自然保護	自然, 親水
利便性	便利, 交通

表4 公的意見と私的意見の判断の仕方

公	「みんなが」、「唐津の人が」など自分以外の人を意識した内容で主張の根拠が書けていると公共性を考慮と判断。
私	「楽しいから」、「遊びたいから」など自分の欲求が主張の根拠の中心になっているものを私的な欲求を考慮と判断。

まず、抽出児を通して具体的な児童の変容を見てみる。表5に示すように、A児とB児は、共にディベート前と後での賛否は変わらなかったものの、多様な価値を考慮し、いずれも賛否の理由がより

表5 論題「佐志浜埋め立て地に唐津海遊タウンをつくるべきである」についての抽出児の意見の変容

	ディベート前	ディベート後	意見, 理由の変容の理由
A児	<b>(反対)</b> 唐津らしさが少ない。唐津ならではのものが少ない。 (郷土愛)	<b>(反対)</b> 観光客増, 収入増は絶対じゃない。環境に悪い。唐津ならではのものが少ない。ちゃんが言ったように, 観光客は唐津の歴史などが分かるところに行っている。(郷土愛, 経済, 自然保護)	最初は自分の考えしか書いていなかったけど, ディベート後は唐津市民のことを考えたり, もっと詳しく書けるようになったから。
B児	<b>(賛成)</b> 唐津海遊タウンがあると楽しいし, 身近にあるから気軽に行ける。 (娯楽)	<b>(賛成)</b> 唐津がもうかると他にもいろんな施設ができてよりよい唐津が誕生すると思う。 (生活福祉, 経済)	意見は変わらなかったけど理由が深く書けた。道の駅のデータから考えて, 唐津市の収入が上がると, バリアフリーとかに利用できる。
C児	<b>(賛成)</b> 唐津には遊ぶ場所が少ない。だから遊ぶ場所がほしい。 (娯楽)	<b>(反対)</b> 環境に悪いことも起こる。また, マリンワールドとかみたいに, 収入があまり入らなかつたら, 赤字経営不振が起こり閉鎖するかも知れない。 (経済, 自然保護)	前のぼくは遊ぶことしか考えてなかったけど, いろいろな考え, いろいろな意見を聞いて変わりました。

具体的になっているのが分かる。また、B児は、賛否の理由の「私」から「公」への変容が見られる。C児は、賛否の変容とともに、理由も「私」から「公」へ変容している。さらに、C児本人は、ディベート前の意見は「娯楽」の価値に偏りがちであったことを自覚できている。

「私」から「公」への変容、多様な価値の考慮はクラス全体の傾向としても現れている。図2で示したように、ディベート前後の意見の変容を見てみると、ディベート前の児童は、「娯楽」を中心に「私」の意見が多いが、ディベート後は「公」の意見が増え、さらに、「経済」「自然保護」「生活福祉」などの多様な価値を考慮できるようになったことが分かる。

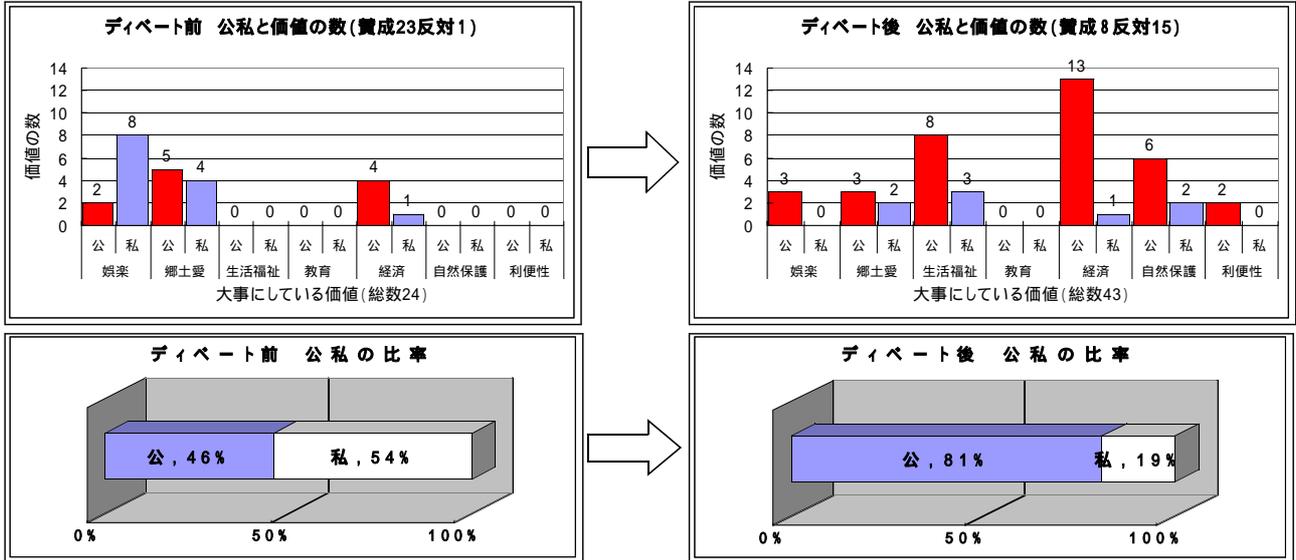


図2 ディベート前後の価値の数と公私の比率の推移

イ 活用策についての意見の変容(単元全体)

佐志浜埋め立て地の活用策について、単元全体を通しての意見の変容を見てみる。

抽出児を見てみると、表6に示すように、D児、E児とも単元が進むにつれて考慮する価値が増えているのが分かる。また、「意見が変わった理由」からは、「安心」「安全」「唐津らしさ」などの価値を考慮して意見が変容してきたことを自覚できていることが分かる。このことから、個人の意見を吟味する場において行った「思考・判断の基になる価値の自覚」が有効に働いたことが言える。

クラス全体の傾向を見てみると、次頁図3から分かるように、事前アンケートから第3時までは、埋め

表6 埋め立て地の活用策についての抽出児の意見の変容

抽出児D	事前アンケート	ブレインストーミング(第4時)	最終意見
価値	遊び	観光 歴史 雇用	自然 暮らし 安心 医療
プラン	少し遊べる公園	博物館 くunchi歴史館	大きな病院
	事前アンケート～ブレインストーミング(第4時)		ブレインストーミング(第4時)～最終意見
意見変容の理由	勉強していくうちに「唐津の人の想い」が伝わってきて変わってきたと思いました。いろんな人の意見や想いがあったからだと思いません。		唐津らしさや自然などいろんなものが大事だと思うようになって、意見が変わりました。
抽出児E	事前アンケート	ブレインストーミング(第4時)	最終意見
価値	遊び	観光 文化	安全 唐津らしさ 安心
プラン	すべり台やブランコなどの遊び場	唐津タワー 展示館	くunchi歴史館
	事前アンケート～ブレインストーミング(第4時)		ブレインストーミング(第4時)～最終意見
意見変容の理由	変わった理由は、せっかく埋め立て地を作って何にも使わないから、何を建てるかを考えなきゃと思ったからです。		安心、安全という「大事だと考えていること」で意見が変わりました。理由はこのごろ事件などが多いので観光や文化だけではいけないと思いました。

立て問題や海遊浪漫都市構想を知ることによって児童の「公」的な意識はだんだん高まっていることが分かる。第4時のブレーストーミングでは、思いつくままに多くのアイデアを出す活動であったことから、「私」的な意見がやや増え、最終意見では、大幅に「公」的な意見が増加している。また、表7の最終意見での価値比率の伸びから、一つのアイデアの中に複数の価値が考慮されている意見が増えたことが分かる。さらに、図4に示すように、事前アンケートでは「娯楽」に偏りがちだった児童の価値が、単元が進むにつれて多様な価値を考慮するようになってきたことが分かる。

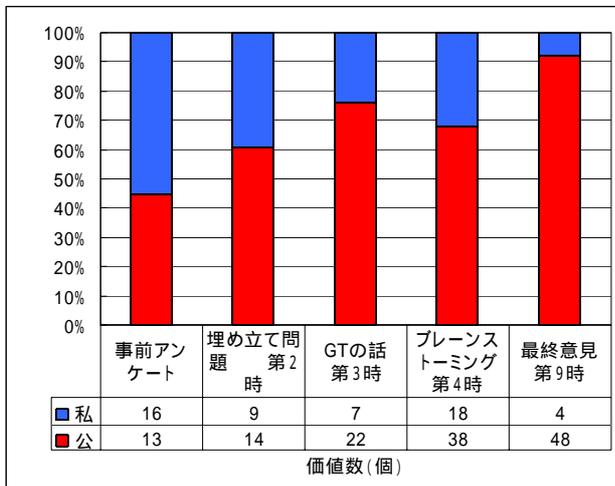


図3 単元全体での公的意見と私的意見の数の推移

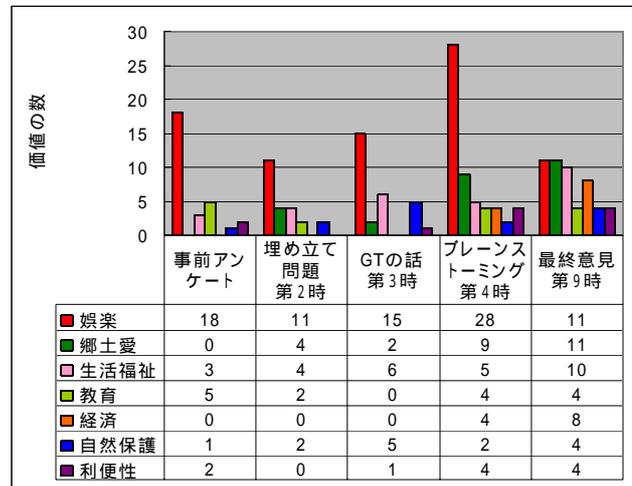


図4 単元全体での価値の数の推移

表7 価値比率の推移( 価値比率 = 価値数 ÷ アイデア数)

## 6 研究のまとめと今後の課題

### (1) 研究のまとめ

ア 身近な社会的問題を教材化し、問題にかかわるゲストティーチャーを活用する

ことで、児童の社会的問題に対する切実感をもたせ、学習への興味・関心を持続させることができた。

イ 自分の意見を吟味する学習活動の中に「思考・判断の基になる価値の自覚」を取り入れた結果、児童は意見に内在する多様な価値に気付き、それらを考慮して社会的事象を多面的にとらえ、社会的思考・判断力を高めることができた。

ウ 議論を客観的に振り返り、意見の深まりを促すアフターディベートを取り入れたことで、児童はディベート前後の自分の意見の変容に気付き、その理由について分析することができた。また、自分の意見の変容を自覚できるワークシートを取り入れたことで、自分の社会的思考・判断力の高まりを自覚することができた。さらに、単元全体を通じた社会的思考・判断力の評価の工夫により、私的な欲求を重視した意見から公共性を考慮した意見への変容や、多様な価値を考慮した意見への変容など社会的思考・判断力の高まりを分かりやすく評価することができた。

### (2) 今後の課題

これからの社会科学習では、児童の社会的思考・判断力を育成するための教材の開発、意見を吟味する学習活動の工夫がより求められる。そのためには、ディベート前後の学習活動で児童に与える資料を精選し、より活用しやすくすることが必要だと考える。今後は、議論を読み取り評価する力を育成し、精度の高い議論ができるディベート授業を研究していきたい。

## 参考文献

- ・ 佐長 健司 『社会科でディベートする子どもを育てる』 1997年5月 明治図書
- ・ 佐賀市立本庄小学校研究紀要 『主体的に学び続ける子どもを育てる教育活動の研究』 1997～1999年